

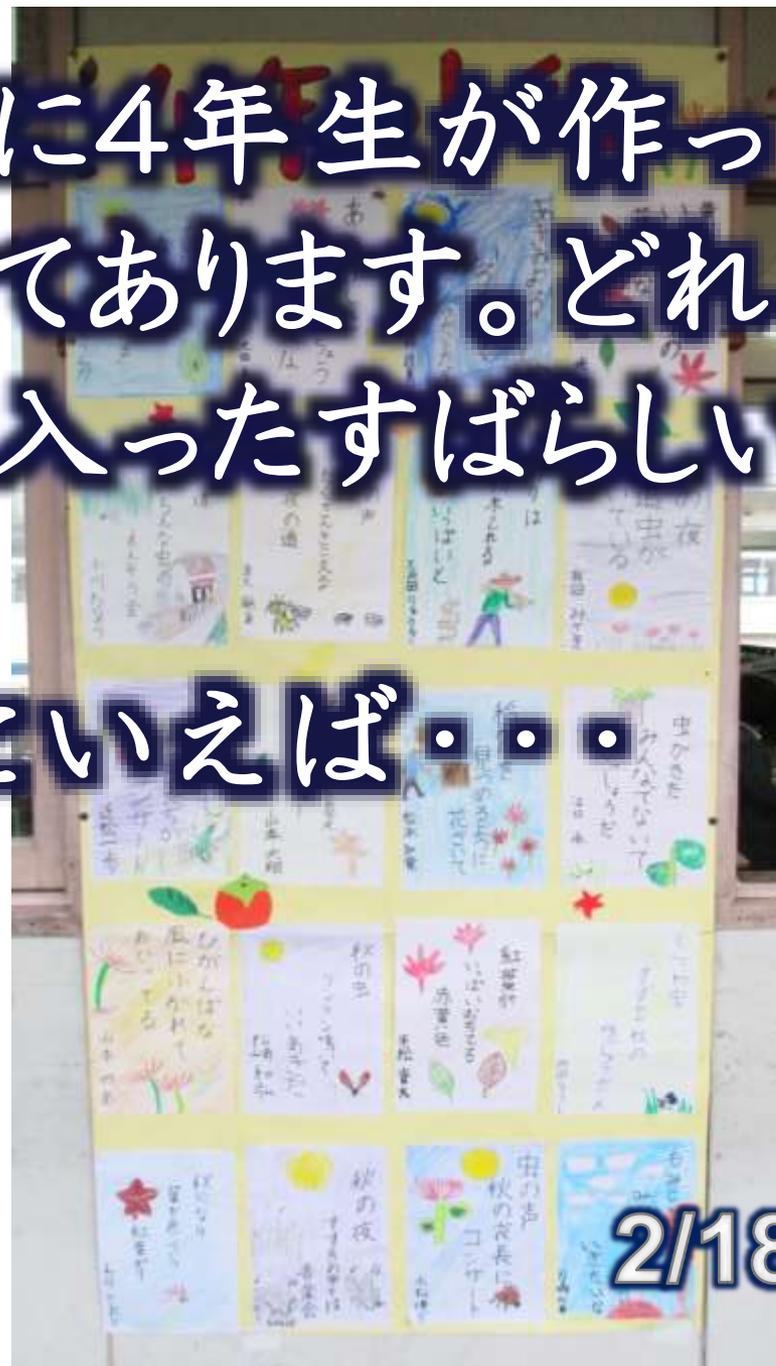
いのち二つの

話



今、2階のろう下に4年生が作った「俳句」がかざってあります。どれも、季節の言葉が入ったすばらしい「俳句」です。

さて、「俳句」といえば・・・



**松尾芭蕉**さんが有名です。

芭蕉さんは江戸時代にいろんな所を旅して、たくさんの俳句を作りました。





しずかさや  
いわにしみる  
せみのこえ



なつくさや  
つわものどもが  
ゆめのあと

5/18



などの俳句がよく  
知られています。

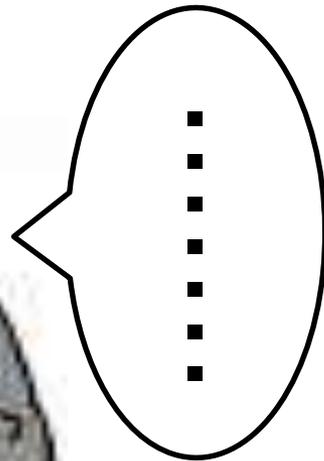
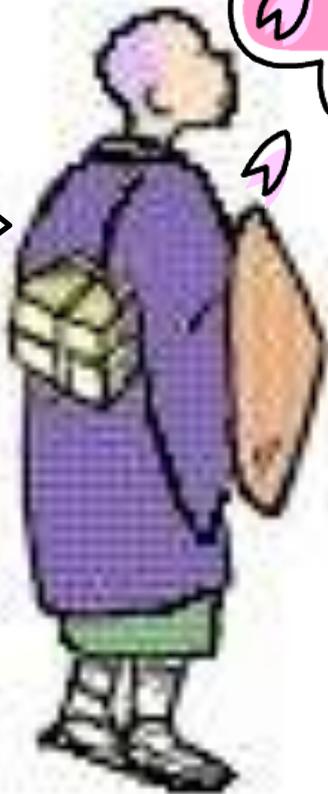
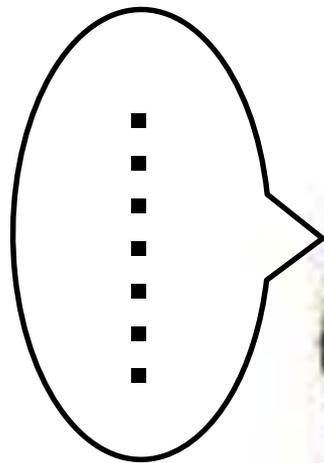
ふるいけや  
かわずとびこむ  
みずのおと

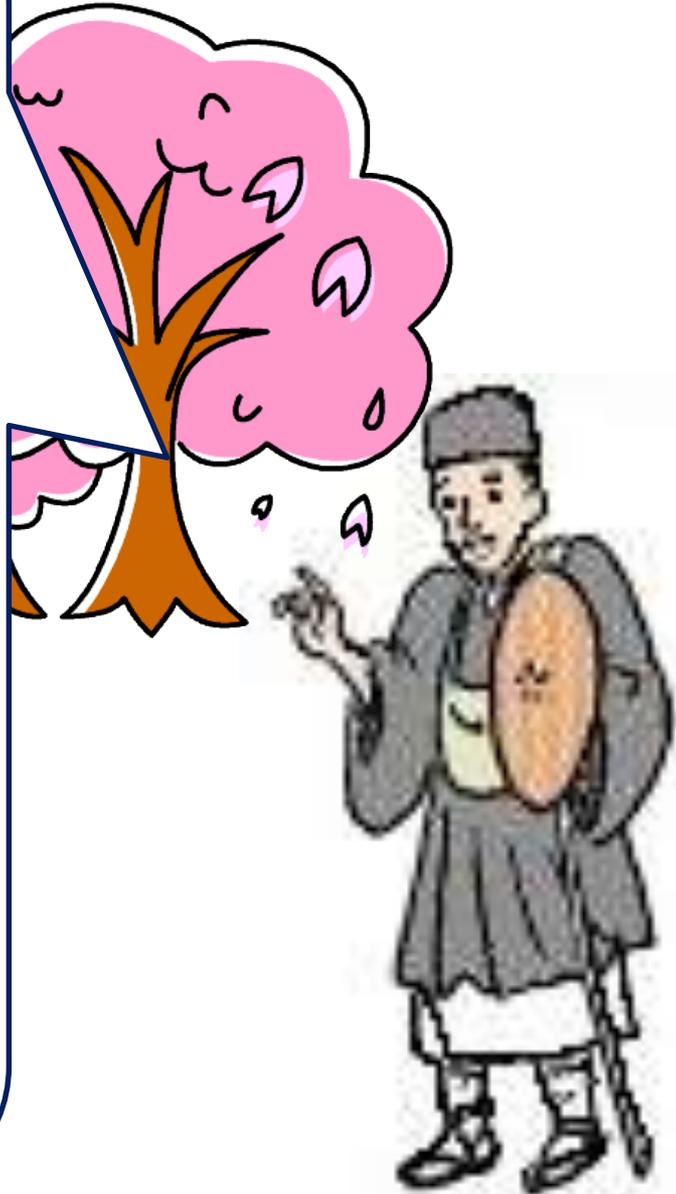
6/18

芭蕉さんが滋賀県の水口という所  
を旅していたときの事です。



なんと30年ぶりに、古い友とばったり  
り会いました。そこで、さっそく、こん  
な俳句をよみました。





ふた

いのちこつ

なか

中にいきたる

さくらかな

いのちこつ

中にいきたる

さくらかな

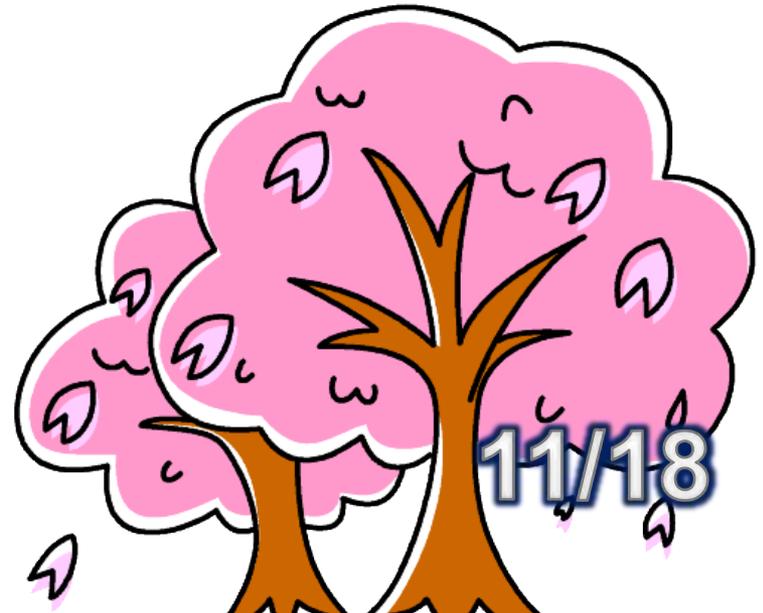
10/18



「二人ともいのちがあつて、  
また会うことができた。

その喜びの中に桜がいき  
いきと咲いている」  
という意味です。

俳句の中に「いのち」という言葉が  
でてくるのは、たいへんめずらしいこ  
とです。二人のいのちの大切をた  
いへんよく考えていたのですね。



清明の池の「かも」たちは、人の姿をみると、すぐ逃げます。自分の「いのち」を大切にしているのです。



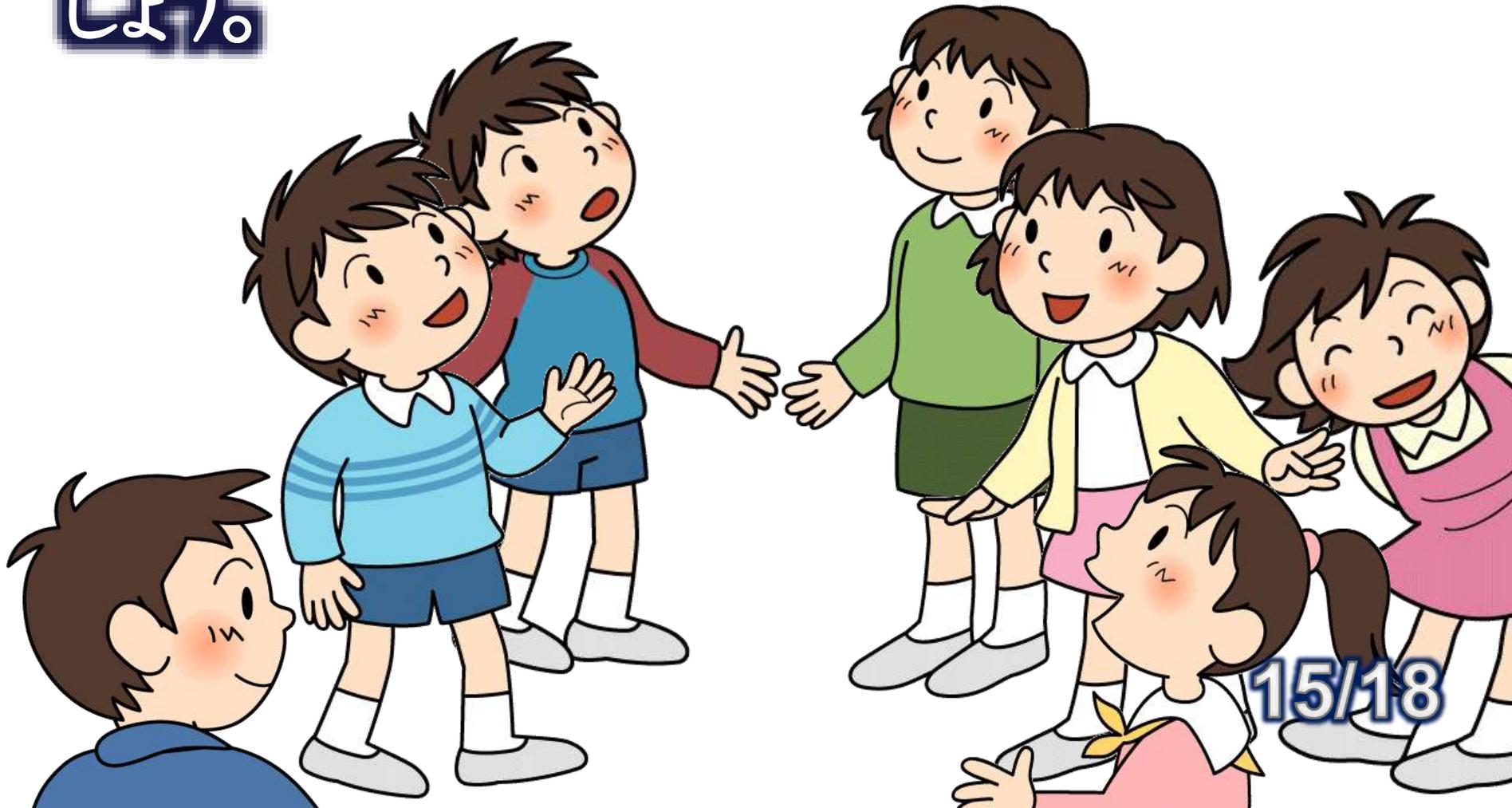
わたしの「いのち」と友だちの「いのち」。「いのち」は一つではありません。「いのち」と「いのち」はふれあい、ささえあっています。



いま「人権月間」です。「人権」を大切にすることは、「いのち」を大切にすることです。



いじめをしないで、みんななかよく、みんなの「いのち」を大切にしましょう。



交通事故などにあわないように、  
自分の「いのち」も大切にしましょう。



さいごにもういちど、芭蕉さんの俳句  
をよみます。



いのち二つ  
中にいきたる  
さくらかな

あ わ い